

浸水被害軽減対策の概要



フラップゲート設置箇所

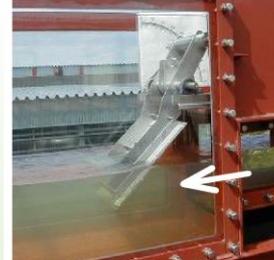
設置箇所	設置数	計画概要
ビーチ護岸	1	出口を延伸し、柵を新設してゲートを設置します
西護岸	2	現在設置されている出口を活用し、その前面に設置します
東護岸(北側)	1	現在設置されている出口を活用し、その前面に設置します
東護岸(南側)	1	出口に設置せず、背後の緑地に大型柵を新設し、その中に設置します

- フラップゲートを設置し、高潮時の逆流を防止します。
- フラップゲートは施工性と降雨時の雨水の貯留効果を考慮して**排水管出口に設置**します。
- 排水管が函渠(円管ではなくボックス)であり、比較的大きな角型ゲートを設置することになります。
- そのため、開閉の確実性を考慮し**バランスウェイト付**とし、波の影響などにも配慮します。
- 東護岸(南側)は、直立した護岸となっているため**バランスウェイト付きのフラップゲートの設置が困難**です。
- そのため、排水管のルート上に**特殊人孔(大型の柵)**を新設しその中に設置します。

設置事例



高潮時には海側からの水圧でゲートが閉まる



降雨時にはゲートが開き海に排水される



排水量が増えても海面と僅かでも差があれば海に排水される

フラップゲート対策で十分でない箇所については、別途追加対策を行います。